

しきなん

「南小まつり」
学年毎に発表します。

例年実施している「南小まつり」を今年度は、一月二二日(土)午前八時五十分から一時三十分まで各学級の教室等を会場に行います。開会式や閉会式は校内放送を利用します。参観される皆様は受付をすませた後、直接各会場にお進みください。各学年の発表は、次のとおりです。

- 一年：木の実ワールド
- (ゲームやお店開店)
- 二年：子ども郵便局
- (郵便を集配)
- 三年：ストップ 地球温暖化
- (学習の成果を発表)
- 四年：広げよう助け合おう心
- (福祉への取り組み発表)
- 五年：知ろう 考えよう
- なるほど 私たちの日本
- (日本の学習成果を発表)
- 六年：みんなで創ろう平和な地球「敷島ピースタウン」
- (平和や環境を考える)

次第 八時五十分 開会式
九時一〇分 前半開始
移動
一〇時一五分 後半開始
一時五〇分 集団下校

敷島南小学校

秋に行った授業参観で5年2組は保護者の方とミシン実習



秋の校外学習から

学校では、体験活動に重きをおいた授業に取り組んでいます。そのため、六年生は国会議事堂を社会科見学に組み込み修学旅行とは別に東京に出かけています。五年生では、稲作体験をし、四年生は敷島地区の水路調べの学習も兼ねて校外学習を実施しています。



11月7日(金)三年生の社会科見学から

また、三年生も社会科校外学習で、敷島金属という企業を見学しています。この会社ではシリンドー錠を数種類製造しており、いくつかの種類がある部品を組み合わせて製品の種類を増やし、需要に応える工夫をしていました。地元の会社ということもあり、子どもたちは説明にすっかり耳を傾け、メモしていました。

算数科研究授業

飯嶋教諭(章王北小)

十一月二日(水)の特別時間帯に、四年一組の教室で中巨摩の小学校算数科研究会に参加する二〇人程度の先生方と四年一組児童の協力で分数分野の研究授業を行いました。授業計画案を研究会員が組み立て、児童には初対面の章王北小学校に勤務する飯嶋教諭が授業者となり研究しました。穏やかにユーモア溢れる口調で授業は進み、ピザパ伊が印刷されている紙を二分の一や四分の一、そして八分の一にする方法を児童たちの間で話し合いながら面積も分数として扱うことができるところを学習しました。研究で目指した「広さを等分すること、分数の

理解を深める」「自分の考えを伝えたり、相手の考えを尋ねたりしながら、学び合う」授業の進め方について沢山の収穫を得ることができました。御協力いただいた四学年保護者の皆様に深く感謝いたします。

個に応じた授業から

「かがやき三〇プラン」

山梨県教育委員会では、児童個々の学びに応じた学習を進めるために様々な取り組みを行っています。その中でも注目されているのは、三〇人学級の存在だとうと思えます。国の規準では四〇人を超えた時に初めて二学級になるとされています。現在の敷島南小学校四学年は四〇人規模の学級二クラスで学習しています。しかし、一・二年生は県の三〇人学級への政策「かがやき三〇プラン」に該当する児童数が在籍するため三学級編成を実施しています。一方、甲斐市では、一年生から三年生までの学級で規定の人数(一学級の人数が三六人)を超えた場合、その市単独で採用する先生をその学校に配置しています。

ともがありがたい制度ですが、県の規定は三年生以上には適用されないため、平成二一年度の敷島南小学校三年生は二学級に編成し直すこととなります。甲斐市の規定は「一・三年生で該当する場合」となっています。教育では、少子高齢化とともに困難な課題の解決に向けた取り組みが続きます。

ある日の集団下校から



危険と遊び

人は経験しながら大人になると思います。ある時期にそのことを経験しなければ、後の人格が育たないとも聞きます。学校では、できるだけ様々な経験をさせたいと考えています。しかし、ケガを恐れて危機的状況に遅れをとる児童にさせたくもありません。安全でしか必要ない体験を数多くさせたいのですが、難しい課題です。 (文責：飯室)